

教科	国語	学年	第1学年
単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準
朝のリレー	2	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
声を届ける「野原はうたう」 書き留める 言葉を調べる	3	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ・本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたりすることをする。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →聞き手を意識して声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の大きさや高さを工夫している。 →情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。 【知・技】 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →ノートの手書きの工夫を理解し、線や矢印で情報を整理している。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理して「言葉の手帳」に書き込んでいる。 【態】進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かして「言葉の手帳」を作ろうとしている。

はじまりの風	4	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 ★物語を読み、考えたことなど	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →図などを使って、心情の変化を整理している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。 【態】場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。
【聞く】 情報を聞き取り、要点を伝える	1	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →5W1Hに注意して、キーワードとなる言葉を書き留め、番号や記号を用いて整理している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →日常の話題について、聞き取った情報を整理し、伝える内容を考えている。 【能】聞き取った情報を進んで整理し、学習課題に沿って、要点を伝えようとしている。
言葉1 音声の仕組みや働き	1	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →日本語の音声が母音と子音で構成されることや、アクセント・イントネーションによって意味や調子が変わることなどを理解している。 【態】声の出し方による伝わり方の違いを、試行錯誤しながら確認し、それらを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。
話の構成を工夫しよう 一枚の写真をもとにスピーチをする	4	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。 相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。 ・紹介など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりできる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)イ) →聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す順番を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の反応を見ながら、伝えたいことがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話している。 【態】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。

ダイコンは大きな根？	2	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ・文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。 ・説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりできる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →本文中で比較がどのように使われているかを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →「問い」と「答え」から中心的部分を捉え、筆者の主張を理解している。 【態】文章の中心的部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。
ちょっと立ち止まって	3	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ・文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。 ・説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりできる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →筆者の主張と事例との関係を整理している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。 【態】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
情報を整理して説明しよう 発見したことをわかりやすく書く	4	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考慮することができる。 ・本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書くことができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →集めた情報を、観点に沿って比較したり、共通点を見つけて分類したりして整理している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明に必要な情報を取捨選択している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →わかりやすく説明するために、まとめ方や順序を工夫している。 【態】集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明する文章を書こうとしている。

空の詩 三編	3	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。 ・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 ・詩や解説文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりすることができる。 ・詩を創作し、感じたことや考え	【知・技】 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) →表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →詩に描かれている情景を想像し、具体的な叙述を取り上げて表現の効果を考えている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。 ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手の助言から、創作した詩のよい点や改善点を理解している。 【態】詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。
漢字に親しもう 漢字の組み立てと部首 他	4	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) →漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう 文法1 言葉の単位	2	・単語の類別について理解することができる。	【知・技】単語の類別について理解している。((1)エ) →文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる言葉の単位について理解しようとしている。

大人になれなかった弟たちに……	4	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 ・物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりできる。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →描写に着目して、登場人物の行動の理由や心情の変化を捉えている。 【態】登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。
星の花が降るころに	5	・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 ・小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりすることができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理・比較している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ) →場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。 【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。
項目を立てて書こう 案内文を書く	3	・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考慮することができる。 ★行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書くことができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →相手が必要とする情報を明確に伝えるために、案内文の構成を考えて書いている。
漢字の音訓	1	・学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ) →漢字の音・訓について理解し、熟語を正しく読んだり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	5	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →文章の構成や展開の効果について、根拠となる段落や部分を挙げて考えを書いている。 【態】文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
根拠を明確にして書こう 資料を引用して報告する	5	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 ・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。 ・本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報を整理し、自分の考えを裏づける資料やデータを選び、出典の示し方に気をつけながら引用している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →集めた資料やデータを根拠として明確に示しながら、自分の考えを書いている。 ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手の助言をもとに、引用のしかたや根拠の明確さなどについて、よい点や改善点を見いだしている。 【態】根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。
文法への扉2 言葉の関係を考えよう 文の組み立て 他	5	・単語の類別について理解することができる。 ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	【知・技】単語の類別について理解している。((1)エ) →「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」について、理解を深めている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。

蓬萊の玉の枝 ——「竹取物語」から	5	・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 ・古文を読み、考えたことなどを記録し、人に伝えようとする。	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →音読に必要な文語のきまり、古文特有のリズムについて理解し、その世界に親しんでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →文章を読み、登場人物の思いや行動、現代との共通点や相違点について考えを深めている。 【態】進んで古文を音読し、今までの学習を生かして描かれている古典の世界を想像しようとしている。
今に生きる言葉 故事成語を使って体験文を書こう	3	・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 ・本や資料から文章を引用して説明するなど、事実やそれを基	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →文語のきまり、漢文特有のリズムや言い回しなどについて理解して音読している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →「矛盾」や、「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の基になった故事を調べ、どんな意味で使われるようになったか説明している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →故事成語と自分の体験とを重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。 【態】積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こう

「不便」の価値を見つめ直す 筆者の主張に対する自分の意見を書こう	4	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。 ・根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 ・説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりできる。	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →自分の意見を述べるときには、根拠が必要であることを理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報の整理の仕方を理解し、本文を要約したり引用したりしながら自分の考えをまとめている。 【思・判・表】 ・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) →目的に沿って必要な情報を結び付け、要約している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →文章を読んで理解したことに基づいて、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げながら、意見を書いている。
文法への扉3 単語の性質を見つけよう 単語の分類	2	・単語の類別について理解することができる。	【知・技】単語の類別について理解している。((1)エ) →「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深めている。 【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。
話題や展開を捉えて話し合おう グループで語り合い、ものの見方を広げる	4	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。 ・互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合うことができる。	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →自分の考えをまとめる際に、意見に対する根拠を考えている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →話し合いの話題や展開に沿って、互いの発言を結び付けながら話したり、自分の考えをまとめたりしている。 【態】積極的に互いの発言を結び付けて考え、学習の見通しをもってグループで話し合いをしようとしている。

二十歳になった日	4	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 ★随筆を読み、考えたことなどを語録にまとめ、自分の考えをまとめる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →心情を表す語句や表現に着目し、感じたことを言語化している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →本文中の具体的な記述を挙げながら、構成の工夫や表現の効果について考えている。 【態】進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。
少年の日の思い出 別の人物の視点から文章を書き換えよう	7	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 ・小説を書き換えるなど、感じたことや考えたことを書ける。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →行動描写や情景描写、心情を表す言葉に着目している。 【思・判・表】 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →登場人物のものの見方について、自分の考えをもっている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →読み深めたことを基に、別の視点から出来事や心情を捉え直して作品を書き換えている。 【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって
ぼくがここに	2	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) →詩に用いられている表現の技法を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ) →表現や表現技法に着目して読み深めたことを基に、作者の思いを想像し、考えている。 【態】積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って、考えたことを伝え合

構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く	5	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ) →体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →読み手が状況をイメージできるよう、書く内容の中心が伝わるように、構成を工夫している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)
一年間の学びを振り返ろう 要点を資料にまとめ、発表する	5	・相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →情報の整理のしかたを理解し、要点をわかりやすく資料にまとめている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の反応を踏まえて、考えがわかりやすく伝わるように用いる言葉を工夫して話している。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →「観点」に見合った情報を集めて整理し、発表の要点を資料に書いている。 【態】集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点を資料にまとめ、発
聞き上手になろう 質問で話を引き出す	2	・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。 ・紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したりすることができる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →話す速度や声の大きさ、言葉の調子や間の取り方などに注意しながら話している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →話し手の話に耳を傾け、質問のしかたを工夫しながら対話をし、話を十分に引き出している。
方言と共通語	1	・共通語と方言の果たす役割について理解することができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】共通語と方言の果たす役割について理解している。((3)ウ) →共通語と方言の役割や特徴について理解している。 【態】今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。

情報収集の達人になろう 著作権について知ろう	3	・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書くことができる。	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) →考えを述べる際に、その考えを支える理由や事例が必要なことを理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →本やインターネットで調べた情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方を理解している。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →調べたいテーマについて、本やインターネットを活用して情報を集め、整理し、伝えたいことを明らかにして書いている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ) →読み取った情報を基に、自分の考えを書いている。 【態】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生
比喩で広がる言葉の世界	2	・比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。	【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) →文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →各段落の役割を理解し、要旨を捉えている。 【態】進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとし
弁論大会準備 弁論 他	4	・自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。 ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えていく。(A(1)イ) →聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す順番を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の反応を見ながら、伝えたいことがわかりやすく伝わるように表現を工夫して

国語の力試し	3	・文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。 ¥表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。 ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。 ・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 ・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。 ・音読に必要な文語のきまりを知り、古典世界に親しむことができる。	【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →本文中の「発酵」の説明を適切に抜き出している。 ・「読むこと」において、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →擬人法の表現の効果について、本文に基づいて書いている。 ・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ) →「山登りのルートについて」の話し合いの展開を捉え、発言を結び付けて考えをまとめている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →案内文で、項目ごとに伝えたいことを整理して明確に書いている。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →小学六年生を想定して、わかりやすい表現に書き換えている。 【知・技】 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。((1)オ) →比喩の表現技法を理解し、使っている。 ・音読に必要な文語のきまりを知り、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →音読に必要な文語のきまりについて理解している。 【態】今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。
百人一首	5	・音読に必要な文語のきまりを知り、古典の世界に親しむことができる。 ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】 ・音読に必要な文語のきまりを知り、古典の世界に親しんでいる。((3)ア) →音読に必要な文語のきまりについて理解している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
漢字の筆使い 点画、部分の組み立て方 他	5	・点画の種類を確かめ、漢字の筆使いに注意して楷書で書くことができる。	【知】点画の種類を確かめ、漢字の筆使いに注意して書いている。 【思】毛筆で「天地」を書くなかで、漢字の筆使いを確かめている。 【態】進んで(①)漢字の筆使いに注意し(③)、学習課題に沿って(②)「天地」を書こうとしている(④)。

漢字を分解してみよう 他	1	・点画の種類を確かめ、穂先の向きや筆圧などに注意して点画を書くことができる。	【知】点画の種類を確かめ、穂先の向きや筆圧などに注意して点画を書いている。 【思】点画を書くなかで、穂先の向きや筆圧などを確かめている。 【態】進んで(①)穂先の向きや筆圧などを確かめ(③)、学習課題に沿って(②)点画を書こうとしている(④)。
楷書に調和する仮名(いろは歌)	2	・楷書に調和する仮名の筆使いや字形に注意して、整えて書くことができる。	【知】楷書に調和する仮名の筆使いや字形に注意して、整えて書いている。 【思】小筆で「いろは歌」を書くなかで、楷書に調和する仮名の筆使いや字形を確かめている。 【態】積極的に(①)楷書に調和する仮名の筆使いや字形に注意して(③)、学習課題に沿って(②)「いろは歌」を書こうとしている(④)。
文字の大きさと配列(俳句)	2	・文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書と楷書に調和する仮名で書くことができる。	【知】文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書と楷書に調和する仮名で書いている。 【思】決められたサイズ用の紙に俳句を書くなかで、文字の大きさ、配列などを確かめている。 【態】進んで(①)用紙に合った文字の大きさ、配列などについて考え(③)、学習課題に
行書の特徴	2	・楷書と行書の違いや、漢字の行書の筆使いの特徴を理解することができる。	【知】楷書と行書の違いや、漢字の行書の筆使いの特徴を理解している。 【思】速さを意識して書き比べる活動のなかで、両者の違いを確かめている。 【態】積極的に(①)速く書いたときの文字の特徴を捉え(③)、学習の見通しをもって(②)楷書と行書の違いや行書の筆使いの特徴を見つけようとしている(④)。
点画の変化	3	・漢字の行書の基礎的な書き方(点画の変化)を理解して、身近な文字を書くことができる。	【知】漢字の行書の基礎的な書き方(点画の変化)を理解して、身近な文字を書いている。 【思】毛筆で「大木」を書くなかで、行書の特徴<点画の変化>を確かめている。 【態】進んで(①)行書の書き方(点画の変化)を理解し(③)、学習課題に沿って(②)「大木」を書こうとしている(④)。
点画の連続	1	・漢字の行書の基礎的な書き方(点画の連続)を理解して、身近な文字を書くことができる。	【知】漢字の行書の基礎的な書き方(点画の連続)を理解して、身近な文字を書いている。 【思】毛筆で「日光」を書くなかで、行書の特徴<点画の連続>を確かめている。 【態】進んで(①)行書の書き方(点画の連続)を理解し(③)、学習課題に沿って(②)「日光」を書こうとしている(④)。
書き初め練習	4		【知】今までに学習した知識・技能を生かして書いている。 【態】積極的に(①)習得した知識・技能を振り返り(③)、今までの学習を生かして(②)題字を書こうとしている(④)。